

音楽科研修「作曲に親しもう！」

講師 西澤 健治先生（作曲家 ピアニスト）

日時 令和2年9月2日（水）15時30分～

会場 桜岡小学校 体育館

- はじめのことば 横浜市音楽研究会副会長 長谷川利恵校長先生
- 講師紹介 横浜市音楽研究会会長 後藤俊哉校長先生
- 研修内容

①「作曲に親しもう！」

・西澤健治先生作曲「うたをつくろう1」（4分の4拍子ハ長調4小節の曲）の歌の部分に自由に歌詞を付けて代表者が作詞して歌で表現しました。

・「給食なんだろう なんだろう ホイコーロー」という歌詞が最初に発表されました。ここでは「**同じメロディーのときは、同じ歌詞がよい**」というご指導があり、その後の歌の歌詞づくりに生かされました。

・例として「いつでもなかよしだ なかよしだ パパとママ」が示され、後藤俊哉校長先生からは、「みんなに会いたいな 会いたいな さみしいよ」を歌っていただきました。

・「うたをつくろう」の曲は1から7まであり、4小節の中にさまざまな作曲の要素がちりばめられています。4分音符が多いもの（3）、3連符を使ったもの（6）、リズムのくり返しと対比があるもの（1・2・3・4）などさまざまです。メロディーに歌詞をつけてオリジナルソングをつくる学習を通して、「歌詞の特徴をメロディーに生かして**歌をつくる学習**」への基礎となるのではないかと感じました。

・グロッケンや木琴で「うたをつくろう」を演奏し、楽器によってイメージが変わってきこえることを聴き比べました。**グロッケン**はチャーミングな感じになり、**木琴**はコミカルになるなど、旋律は演奏する楽器によってイメージが大きく変わるといことも感じることができました。**シンセサイザー**を活用するにもよいというお話もありました。

②「ハロー・シャイニング ブルー」の指導のポイント

・作曲者ならではの歌唱指導のポイントについてお話しいただきました。作曲者自らのすばらしい伴奏で歌う場面ではきれいな合唱が体育館に響き渡りました。

・前奏は「**ストーリー**」をつくっていく重要な役割があり、出だしでは「**太陽のキラキラ感**や**海辺**」のイメージを出し、4小節目あたりから「ちょっと雲が陰り」7小節から8小節にかけては「**また太陽が出た、明るさや広がり**」を表現し、最後の**クレシェンドを十分に表現**するとよいことを教えていただきました。

・歌い始めの**8分休符は言葉を大切にするためのもの**あり、準備として「・空が

～」では**Sの発音を準備**し、「・遠く～」では**Tの発音を準備**するとよいことを教えていただきました。

・歌が始まって8小節目の**伴奏**の後半「・レレド」の部分は、9小節目への**導入として歌う気持ちで表現**するとよい、ということでした。

・9小節目の「・そっと～」2番の「・かすかに」など**言葉に合ったニュアンス**を工夫していくとよいそうです。

・13小節目で初めて**8分休符がなく**1拍目から歌が始まることを意識し、15小節では**4分休符をふんばって**表現していくとよいことを教えていただきました。

・最後の「**なーかーまーさー**」は、「**一つ一つを大切に歌ってほしい。3連符との中間のリズムで歌う**感じで。」というご指導もありました。

・歌詞の学習の場面では、**語り聞かせるように読む**ことのよさも教えていただきました。

・最後に心がリラックスするようなすてきなピアノを聴かせていただき、研修会が終了しました。

○「終わりの言葉」

横浜市音楽研究会副会長 松崎由里子校長先生

○西澤先生より メッセージ

伴奏譜を全体のスコアとしてみますと、ピアノパートの左手をバス（ベース）、右手のBackingやArp.はシンセ（生楽器でも可）で楽器を選んだり、簡易的なリズム楽器を加え、歌のパートを楽器に置き換えると小編成の器楽合奏ができます。また主旋律（歌のパート）の楽器の選び方によって曲の雰囲気が変わってくるかと思います。主旋律の楽器と伴奏パート楽器とのバランスを考えながら、表現の幅を広げることも楽しいですね！

主旋律を歌＋楽器で演奏するのもいいかも知れません。

スコアをみながら、みなさんが感じるそれぞれのイメージで、楽曲のアレンジをして、グループ単位、あるいはクラス単位で発表し合うのも良いでしょう！